

表6 中項目の結果一覧(5)

中項目	研究6 ICF 環境因子との相関					研究7 P法再入院	研究8 退院後問題行動	研究9 入院継続時×退院時処遇	研究9 退院申請時×通院処遇の居住地	研究9 退院申請×通院処遇/処遇終了							
	生産品と用具	自然環境・地域環境	支援と関係(量的な側面)	態度(感情や質的な側面)	サービス・制度												
1. 精神病症状	個人的支援、コミュニティ要因以外の項目は実施せず								施設>家族同居								
2. 非精神病症状											有り<なし	有り<なし					
3. 自殺企図																	
4. 内省・洞察																	
5. 生活能力																	
6. 衝動コントロール																	
7. 共感性																	
8. 非社会性																	
9. 対人暴力																	
10. 個人的支援													0.34**	0.24**	0.40**	0.37**	0.19**
11. コミュニティ要因													0.48**	0.55**	0.47**	0.42**	0.36**
12. ストレス													有り>なし	有り>なし			
13. 物質乱用																	
14. 現実的計画																	
15. コンプライアンス																	
16. 治療効果																	
17. 治療・ケアの継続性																	
17項目合計								施設>単身	処遇終了>通院 処遇終了>通院 処遇終了>通院 処遇終了>通院 処遇終了>通院 処遇終了>通院 処遇終了>通院								

表7 中項目の結果一覧(6)

中項目	研究10 BSI各因子との相関						研究11 SAI-Jとの相関				
	1. 社会的リスクアセスメント	2. 洞察	3. コミュニケーションとソーシャルスキル	4. 作業とレクリエーション活動	5. セルフケアと家族のケア	6. 共感	SAI-J合計点	1. 治療と服薬の必要性	2. 自己の疾病についての認識	3. 精神症状についての意識	補足項目
1. 精神病症状	-0.18	-0.32	-0.17	-0.16	-0.19	-0.28					
2. 非精神病症状	-0.21	-0.28	-0.21	-0.18	-0.16	-0.24					
3. 自殺企図	-0.01	-0.27	-0.27	-0.21	-0.19	-0.21					
4. 内省・洞察	-0.18	-0.31	-0.17	-0.21	-0.18	-0.22	-0.27	-0.19	-0.27	-0.21	-0.20
5. 生活能力	-0.20	-0.21	-0.18	-0.19	-0.29	-0.22					
6. 衝動コントロール	-0.32	-0.19	-0.16	-0.19	-0.17	-0.25					
7. 共感性	-0.15	-0.03	-0.12	-0.19	-0.25	-0.29					
8. 非社会性	-0.25	-0.12	-0.17	-0.12	-0.21	-0.22					
9. 対人暴力	-0.06	-0.09	0.04	-0.05	-0.03	-0.12					
10. 個人的支援	-0.30	-0.11	-0.08	-0.15	-0.03	-0.07					
11. コミュニティ要因	-0.13	0.11	0.05	0.07	0.08	0.03					
12. ストレス	-0.21	-0.20	-0.12	-0.17	-0.20	-0.15					
13. 物質乱用	-0.08	0.06	0.07	0.01	0.05	0.05					
14. 現実的計画	-0.07	0.08	0.04	0.22	0.03	0.00					
15. コンプライアンス	-0.18	-0.30	-0.12	-0.18	-0.20	-0.25	-0.27	-0.18	-0.29	-0.19	-0.13
16. 治療効果	-0.16	-0.33	-0.22	-0.24	-0.24	-0.29					
17. 治療・ケアの継続性	-0.12	-0.06	0.01	0.00	-0.06	-0.02					
17項目合計	-0.39	-0.34	-0.25	-0.29	-0.31	-0.38					

表8 中項目の結果一覧(7)

中項目	研究11 DAI-30との相関							研究12 SECLとの相関						
	DAI-30合計	第1因子: 主観的な肯定的側面	第2因子: 主観的な否定的側面	第3因子: 健康/病気	第4因子: 医師との関係	第5因子: 自己統制	第6因子: 再発予防	第7因子: 薬物の害	日常生活	治療行動	症状対処行動	社会生活行動	対人関係	総得点
1. 精神病症状								0.05	-0.10	-0.08	-0.08	-0.08	-0.06	-0.06
2. 非精神病症状								-0.07	-0.11	-0.07	-0.10	-0.13	-0.10	-0.10
3. 自殺企図								-0.11	-0.02	0.04	-0.01	-0.05	-0.03	-0.03
4. 内省・洞察	0.03	-0.02	0.04	0.08	0.02	-0.03	0.03	0.07	-0.05	-0.12	-0.05	-0.03	-0.08	-0.07
5. 生活能力								-0.07	-0.08	-0.07	-0.10	-0.10	-0.09	-0.09
6. 衝動コントロール								0.03	-0.10	-0.05	0.02	0.04	0.00	0.00
7. 共感性								-0.13	-0.14	-0.12	-0.13	-1.65*	-1.51*	
8. 非社会性								0.03	0.03	0.11	1.43*	0.04	0.07	
9. 対人暴力								-0.05	-0.07	-0.07	0.07	-0.01	-0.05	
10. 個人的支援								0.05	0.08	0.06	0.01	0.08	0.05	
11. コミュニティ要因								0.01	0.05	0.01	-0.05	-0.04	0.01	
12. ストレス								-0.05	-0.04	-0.03	-0.01	0.02	-0.04	
13. 物質乱用								0.06	0.09	0.05	0.09	0.09	0.08	
14. 現実的計画								-0.04	-0.03	-0.04	0.04	0.04	-0.01	
15. コンプライアンス	-0.07	-0.06	-0.08	0.06	-0.04	0.02	-0.07	-0.13	0.01	-0.04	0.04	0.00	-0.02	0.00
16. 治療効果								-0.03	-0.05	-0.03	-0.02	0.01	-0.03	
17. 治療・ケアの継続性								-0.02	-0.02	0.00	-0.01	0.05	-0.02	
17項目合計								-0.04	-0.09	-0.04	-0.01	-0.04	-0.05	

表9 中項目の結果一覧(8)

中項目	研究13 生活満足度との相関							研究13 AUDIT, IQとの相関	
	生活全般	身体的機能	環境	社会生活技能	対人交流	心理的機能	総合	AUDIT	IQ
1. 精神病症状	-0.03	0.00	0.07	0.02	-0.03	0.14	0.06	-0.10	-0.12
2. 非精神病性症状	-0.09	0.02	-0.02	-0.03	-0.06	-0.01	-0.03	0.04	-0.38
3. 自殺企図	0.02	-0.01	0.06	0.10	-0.01	-0.05	0.02	-0.11	-0.09
4. 内省・洞察	-0.13	-0.04	-0.05	0.00	0.01	0.02	-0.01	0.04	-0.18
5. 生活能力	-0.02	-0.03	0.09	0.00	-0.04	0.05	0.03	0.03	-0.22
6. 衝動コントロール	-0.08	0.07	-0.04	0.06	-0.03	0.07	0.02	-0.10	-0.16
7. 共感性	-0.11	-0.08	-0.07	-0.06	0.01	0.06	-0.03	-0.13	-0.03
8. 非社会性	-0.04	0.05	-0.02	0.05	0.05	0.13	0.07	0.02	-0.16
9. 対人暴力	-0.11	-0.06	-0.07	-0.01	-0.10	0.06	-0.04	-0.12	-0.18
10. 個人的支援	0.07	0.09	0.14	0.08	0.04	0.04	0.10	0.03	-0.06
11. コミュニティ要因	0.12	0.02	0.11	0.03	-0.06	-0.02	0.03	0.10	-0.02
12. ストレス	-0.11	0.00	-0.07	0.01	-0.06	-0.02	-0.04	-0.10	-0.16
13. 物質乱用	0.02	0.03	0.07	0.05	-0.07	0.04	0.03	0.58	-0.22
14. 現実的計画	-0.07	0.02	-0.05	-0.01	0.14	0.00	0.01	0.04	-0.07
15. コンプライアンス	-0.12	-0.09	-0.08	-0.07	-0.02	-0.07	-0.09	-0.09	-0.14
16. 治療効果	-0.04	0.02	-0.02	-0.01	-0.04	-0.01	-0.02	0.07	-0.22
17. 治療・ケアの継続性	-0.05	-0.11	-0.08	-0.03	-0.04	-0.04	-0.07	0.07	-0.10
17項目合計	-0.11	-0.01	0.00	0.03	-0.05	0.08	0.02	実施せず	

表10 中項目の結果一覧(9) 10種の予測妥当性研究結果

中項目	研究15 P 法入院の 予測	研究16 症 状悪化入院 の予測	研究17 問題 行動の予測	研究19 退院 後の暴力の予 測	研究18 退院 後の自傷・自 殺企図の予測	研究20 入院時初 回評価 ⇒院内暴力の予 測	研究26 初回入 院継続時評価 ⇒6ヶ月以降の 院内暴力	研究21 入院時初 回評価 ⇒院内自殺企図の 予測	研究29 初回入院継 続時評価 ⇒6ヶ月以降の院内 自殺企図の予測	研究22 2週入院連への移 行まで期間の予測
1. 精神病症状										0点の群、1点の群<2点の群 0点の群<1点の群<2点の群
2. 非精神病性症状										
3. 自殺企図							ハザード比: 1.820	ハザード比: 1.988 95%CI: 0.847, 4.698		
4. 内省・洞察								ハザード比: 2.283		1点以下の群<2点の群
5. 生活能力								ハザード比: 3.122		0点の群、1点の群<2点の群
6. 衝動コントロール						ハザード比: 1.412	ハザード比: 2.111	ハザード比: 1.812		0点の群、1点の群<2点の群
7. 共感性										ハザード比: 0.685
8. 非社会性						0点の群<2点の群				ハザード比: 0.741
9. 対人暴力										0点の群<2点の群
10. 個人的支援										
11. コミュニティ要因			ハザード比: 1.672							1点以下の群<2点の群
12. ストレス			ハザード比: 1.666	1点の群<2点の群				ハザード比: 2.708		1点以下の群<2点の群 群間差なし
13. 物質乱用			0点の群<2点の群							
14. 現実的計画										
15. コンプライアンス										
16. 治療効果			ハザード比: 1.759	ハザード比: 2.466						0点の群、1点の群<2点の群
17. 治療・ケアの継続性										0点の群<1点以上の群 0点の群<1点以上の群
17項目合計			ハザード比: 1.057	ハザード比: 1.079			ハザード比: 1.107	ハザード比: 1.142		ハザード比: 0.921

表11 【精神病症状】小項目の結果一覧(1)

精神病症状の小項目	研究1	研究2 記述統計							研究3 項目反 応理論	
	ICC (2,1)	M	SD	0点人数	1点人数	2点人数	ステージ間 比較	男女差		年代差
1) 通常でない思考	0.771	1.22	0.85	106	88	189	急>回>社			F2>F3その他
2) 幻覚に基づいた行動	0.655	0.85	0.85	171	97	115	急>回>社			F2>F3
3) 概念の統合障害	0.773	0.7	0.79	193	110	80	急<回>社	男<女		F2>F1
4) 精神病的しぐさ	0.704	0.46	0.66	248	94	41	急<回>社		20代>50代	F2>F3
5) 不適切な疑念	0.636	0.95	0.87	156	92	135	急<回>社			F2,F0>F3
6) 誇大性	0.673	0.36	0.68	291	48	44	急>社			

表 12 【精神病症状】小項目の結果一覧（2）

精神病症状の小項目	研究4	研究5 入院長期化 群と標準群の比較	研究6	研究6 ICF活動と 参加因子との 相関	研究6 ICF 環境 因子との 相関	研究7	研究8	研究9
	因子分析	t検定	ロジス ティック 帰帰 Odds	GAFとの相 関		P法再入院 退院後問 題行動	入院継続 時×退院 時処遇	退院申請 時×通院 処遇の居 住地 退院申請 時×通院 処遇/処遇 終了
1) 通常でない思考	第5因子			-0.42**				
2) 幻覚に基づいた行動	第5因子			-0.40**				
3) 概念の統合障害	第14因子	長期>標準	実施せず	-0.36**	実施せず			
4) 精神病的しぐさ	第14因子			-0.36**		有りくなし		実施せず
5) 不適切な疑念	第5因子			-0.38**				
6) 誇大性	第5因子			-0.33**		有りくなし		

表 13 【精神病症状】小項目の結果一覧（3）

精神病症状の小項目	研究10 BSI各因子との相関						研究11 SAI-Jと の相関	研究11 DAI-30 との相関	研究12 SECLとの相関					
	1. 社会的 リスクファクタ	2. 洞察	3. コミュニ ケーション とソーシャル スキル	4. 作業と レクリエー ション活動	5. セルフ ケアと家 族のケア	6. 共感			日常生活	治療行 動	症状対 処行動	社会生 活行動	対人関 係	総得点
1) 通常でない思考	-0.17	-0.27	-0.13	-0.20	-0.15	-0.26	実施せず		0.05	-0.01	0.05	-0.05	-0.04	0.02
2) 幻覚に基づいた行動	-0.22	-0.30	-0.21	-0.25	-0.22	-0.34			-0.06	-1.42*	-0.08	-1.89**	-1.93**	-0.13
3) 概念の統合障害	-0.14	-0.30	-0.20	-0.18	-0.21	-0.26			0.04	-0.09	-0.09	0.05	0.06	-0.01
4) 精神病的しぐさ	-0.29	-0.38	-0.38	-0.25	-0.39	-0.32			-0.06	-2.11**	-1.49*	-0.09	-0.09	-1.54*
5) 不適切な疑念	-0.04	-0.18	-0.04	-0.07	-0.02	-0.14			0.10	0.06	0.10	0.00	-0.03	0.07
6) 誇大性	-0.13	-0.07	0.02	-0.06	-0.10	-0.13			0.11	0.06	0.09	-0.04	0.03	0.06

表 14 【精神病症状】小項目の結果一覧（4）

中項目	研究13 生活満足度との相関							研究13 AUDIT, IQとの相関	
	生活全 般	身体的 機能	環境	社会生 活技能	対人交 流	心理的 機能	総合	AUDIT	IQ
1) 通常でない思考	-0.05	-0.07	-0.02	-0.05	-0.10	0.06	-0.03	-0.02	-0.11
2) 幻覚に基づいた行動	-0.17	-0.11	-0.07	-0.13	-0.09	0.07	-0.07	-0.09	-0.19
3) 概念の統合障害	-0.07	0.04	0.02	-0.02	0.05	0.18	0.07	-0.07	-0.24
4) 精神病的しぐさ	-0.13	0.15	-0.03	-0.02	0.07	0.23	0.09	-0.14	-0.20
5) 不適切な疑念	-0.15	-0.16	-0.07	-0.08	-0.14	-0.01	-0.11	-0.05	-0.07
6) 誇大性	-0.04	0.02	-0.01	0.00	-0.04	0.10	0.02	-0.08	0.02

表 15 【精神病症状】小項目の結果一覧（5）10種の予測妥当性研究結果

精神病症状の小項目	研究15 P法 入院の予測	研究16 症 状悪化入院 の予測	研究17 問題 行動の予測	研究19 退院 後の暴力の予 測	研究18 退院 後の自傷・自 殺企図の予測	研究20 入院時 初回評価 ⇒院内暴力の予 測	研究26 初回入 院継続時評価 ⇒6ヶ月以降の 院内暴力	研究21 入院時 初回評価 ⇒院内自殺企図 の予測	研究29 初回入 院継続時評価 ⇒6ヶ月以降の院内 自殺企図の予測	研究22 通院処遇への移 行まで期間の予測
1) 通常でない思考										0点の群, 1点の群<2点の群
2) 幻覚に基づいた行動										0点の群, 1点の群<2点の群
3) 概念の統合障害										0点の群<2点の群
4) 精神病的しぐさ										0点の群<1点の群, 2点の群
5) 不適切な疑念										0点の群<1点の群<2点の群
6) 誇大性										0点の群, 1点の群<2点の群

表 16 【非精神病的症状】小項目の結果一覧（1）

非精神病的症状の小項目	研究1	研究2 記述統計						研究3 項目反応理論			
	ICC (2.1)	M	SD	0点 人数	1点 人数	2点 人数	ステージ間比 較	男女差	年代差	診断分類差	対象行為差
1) 興奮・躁状態	0.461	0.5	0.75	252	71	60	急>回>社				
2) 不安・緊張	0.515	0.92	0.72	117	181	85	急<回>社	男<女			
3) 怒り	0.709	0.59	0.8	231	77	75	急>回>社				殺人、放火>性 傷害>殺人
4) 感情の平板化	0.663	0.52	0.65	214	137	32	急<回>社			F2>F1	殺人、放火>傷害
5) 抑うつ	0.543	0.26	0.54	302	62	19	有意差なし	男<女		F3>F0,F1,F2,その他	殺人、放火>傷害
6) 罪悪感	0.321	0.15	0.44	338	33	12	有意差なし			F3>F0,F1,F2	殺人、放火>傷害
7) 解離	0.517	0.04	0.23	368	13	2	急>回<社				
8) 知的障害	0.814	0.69	0.81	202	96	85	有意差なし				
9) 意識障害	0.061	0.04	0.24	370	10	3	有意差なし			F0>F1,F2,F3,その他	放火>傷害

表 17 【非精神病性症状】小項目の結果一覧（2）

非精神病性症状の小項目	研究4	研究5 入院長期化 群と標準群の比較	研究6	研究6 ICF活動と 参加因子 との相関	研究6 ICF 環境 因子との 相関	研究7	研究8	研究8
	因子分析	t検定	ロジスティック 回帰 Odds	GAFとの相 関		P法再入院 退院後問 題行動	入院継続時×退院時処 遇	退院申請 時×通院 処遇の居 遇/処遇
1) 興奮・躁状態	第8因子			-0.40**	実施せず			実施せず
2) 不安・緊張	第16因子			-0.31**				
3) 怒り	第8因子			-0.32**				
4) 感情の平板化	第14因子			-0.38**				
5) 抑うつ	第10因子			-0.07				
6) 罪悪感	第10因子			-0.05				
7) 解離	第13因子			0.04				
8) 知的障害	第18因子			-0.13**				
9) 意識障害	第13因子			-0.06				

表 18 【非精神病性症状】小項目の結果一覧（3）

非精神病性症状の小項目	研究10 BSI各因子との相関						研究11 SAI-Jとの 相関	研究11 DAI-30 との相関	研究12 SECLとの相関					
	1. 社会的 リスクア セスメント	2. 洞察	3. コミュニ ケーション とノージャ ン活動	4. 作業と レクリエー ション活動	5. セルフ ケアと家 族のケア	6. 共感			日常生活	治療 行動	症状 対処 行動	社会 生活 行動	対人 関係	総得 点
1) 興奮・躁状態	-0.30	-0.20	-0.09	-0.18	-0.19	-0.22	実施せず		0.02	-0.01	0.00	0.00	-0.03	0.00
2) 不安・緊張	-0.14	-0.14	0.01	-0.14	-0.01	-0.07			-0.151*	-0.11	-0.12	-0.12	-0.11	-0.14
3) 怒り	-0.33	-0.15	-0.12	-0.11	-0.17	-0.18			0.01	0.00	0.00	0.09	-0.04	0.01
4) 感情の平板化	-0.01	-0.27	-0.39	-0.26	-0.21	-0.30			-0.145*	-0.180*	-0.10	-0.185*	-0.199*	-0.195*
5) 抑うつ	-0.04	0.01	0.00	0.00	0.10	0.10			0.00	0.08	0.10	0.06	0.10	0.06
6) 罪悪感	0.09	0.07	0.07	0.06	0.17	0.19			0.08	0.10	0.155*	0.10	0.09	0.11
7) 解離	0.02	-0.15	0.04	-0.06	0.01	0.02			0.05	0.10	0.03	0.07	0.09	0.08
8) 知的障害	-0.07	-0.17	-0.25	-0.19	-0.24	-0.13			-0.06	-0.12	-0.11	-0.07	0.01	-0.11
9) 意識障害	-0.05	0.13	0.04	0.01	0.05	0.02			0.06	0.10	0.06	0.04	0.12	0.08

表 19 【非精神病性症状】小項目の結果一覧（4）

非精神病性症状の小項目	研究13 生活満足度との相関							研究13 AUDIT, IQとの相関	
	生活全 般	身体的 機能	環境	社会生 活技能	対人交 流	心理的 機能	総合	AUDIT	IQ
1) 興奮・躁状態	-0.01	0.09	0.06	0.03	-0.08	0.12	0.05	-0.09	-0.17
2) 不安・緊張	0.01	-0.04	-0.08	-0.10	-0.12	-0.02	-0.09	-0.10	-0.10
3) 怒り	-0.09	0.03	-0.01	0.01	-0.13	0.03	-0.02	-0.06	-0.15
4) 感情の平板化	-0.08	-0.02	-0.02	-0.10	-0.07	-0.06	-0.06	-0.01	-0.04
5) 抑うつ	0.04	0.05	0.09	0.04	-0.08	-0.01	0.02	0.18	0.06
6) 罪悪感	0.10	-0.06	0.10	-0.06	-0.03	-0.08	-0.03	0.03	0.00
7) 解離	-0.05	0.02	-0.02	0.03	0.02	0.04	0.01	-0.09	-0.02
8) 知的障害	-0.14	0.05	0.01	-0.07	-0.01	-0.04	-0.03	-0.01	-0.76
9) 意識障害	-0.11	-0.07	-0.04	0.00	-0.15	0.00	-0.06	-0.04	-0.08

表 20 【非精神病性症状】小項目の結果一覧（5）10種の予測妥当性研究結果

非精神病性症状の小項目	研究15 P法入院 の予測	研究16 症 状悪化入院 の予測	研究17 問題 行動の予測	研究19 退院 後の暴力の予 測	研究18 退院 後の自傷、自 殺企図の予測	研究20 入院時 初回評価 ⇒院内暴力の予 測	研究26 初回入 院継続時評価 ⇒6ヶ月以降の 院内暴力	研究21 入院時 初回評価 ⇒院内自殺企図 の予測	研究29 初回入院 継続時評価 ⇒6ヶ月以降の院内 自殺企図の予測	研究22 通院処遇への移 行まで期間の予測
1) 興奮・躁状態			0点の群<1点以上の群	0点の群<1点以上の群	ハザード比:1.839	0点の群<1点の群、2点の群				ハザード比: 0.697
2) 不安・緊張			0点の群<1点以上の群	0点の群<1点以上の群						0点の群、1点の群<2点の群
3) 怒り	0点の群<1点以上の群		0点の群<1点以上の群	0点の群<1点以上の群						0点の群、1点の群<2点の群
4) 感情の平板化										
5) 抑うつ	0点の群<1点以上の群			0点の群<1点以上の群						
6) 罪悪感										
7) 解離										
8) 知的障害						0点の群<2点の群	0点の群、1点の群<2点の群			
9) 意識障害										

表 21 【内省・洞察】小項目の結果一覧（1）

内省・洞察の小項目	研究1	研究2 記述統計							男女差	年代差	診断分類差	対象行為差	研究3 項目反応理論
	ICC (2,1)	M	SD	0点人数	1点人数	2点人数	ステージ間比較						
1) 対象行為への内省	0.857	1.09	0.62	58	232	93	急>回>社						実施せず
2) 対象行為以外の他害行為への内省	0.886	0.91	0.79	138	141	104	急<回>社	男>女			傷害>殺人		
3) 病識	0.731	1.22	0.68	55	189	139	急<回>社						
4) 対象行為の要因理解	0.796	1.42	0.7	47	129	207	急<回>社						

表 22 【内省・洞察】小項目の結果一覧（2）

内省・洞察の小項目	研究4	研究5 入院長期化	研究6	研究6 ICF活動と参加因子との相関	研究6 ICF環境因子との相関	研究7	研究8	研究9		
	因子分析	t検定	ロジスティック回帰 Odds	GAFとの相関		P法再入院	退院後問題行動	入院継続時×退院時処遇	退院申請時×通院処遇の居住地	退院申請時×通院処遇/処遇終了
1) 対象行為への内省	第7因子	長期>標準								
2) 対象行為以外の他害行為への内省	第7因子			実施せず	実施せず					実施せず
3) 病識	第7因子									
4) 対象行為の要因理解	第7因子	長期>標準								

表 23 【内省・洞察】小項目の結果一覧（3）

内省・洞察の小項目	研究10 BSI各因子との相関						研究11 SAI-Jとの相関				
	1. 社会的リスクアセスメント	2. 洞察	3. コミュニケーションとソーシャルスキル	4. 作業とレクリエーション活動	5. セルフケアと家族のケア	6. 共感	SAI-J合計点	1. 治療と服薬の必要性	2. 自己の疾病についての認識	3. 精神症状についての意識	補足項目
1) 対象行為への内省	-0.09	-0.06	-0.04	-0.02	-0.03	-0.08					
2) 対象行為以外の他害行為への内省	-0.24	-0.15	-0.01	-0.07	-0.07	-0.04	実施せず				
3) 病識	-0.14	-0.18	-0.08	-0.11	-0.11	-0.13	-0.37	-0.23	-0.41	-0.29	-0.16
4) 対象行為の要因理解	-0.20	-0.30	-0.19	-0.22	-0.15	-0.19	-0.19	-0.07	-0.17	-0.20	-0.12

表 24 【内省・洞察】小項目の結果一覧（4）

内省・洞察の小項目	研究11 DAI-30との相関							研究12 SECLとの相関						
	DAI-30合計	第1因子: 主観的な肯定的側面	第2因子: 主観的な否定的側面	第3因子: 健康/病気の関係	第4因子: 医師との関係	第5因子: 自己統制	第6因子: 再発予防	第7因子: 薬物の害	日常生活	治療行動	症状対処行動	社会生活行動	対人関係	総得点
1) 対象行為への内省														
2) 対象行為以外の他害行為への内省														
3) 病識	-0.05	-0.14	0.03	0.02	0.03	-0.04	-0.02	0.07	-0.04	-0.13	-0.05	-0.08	-0.03	-0.08
4) 対象行為の要因理解	0.06	0.04	0.05	0.11	0.01	0.03	0.03	0.13	0.07	-0.03	0.03	0.04	0.01	0.04

表 25 【内省・洞察】小項目の結果一覧（5）

内省・洞察の小項目	研究13 生活満足度との相関							研究13 AUDIT, IQとの相関	
	生活全般	身体的機能	環境	社会生活技能	対人交流	心理的機能	総合	AUDIT	IQ
1) 対象行為への内省	-0.09	-0.07	-0.13	-0.07	0.00	-0.01	-0.06	-0.19	-0.09
2) 対象行為以外の他害行為への内省	-0.05	0.03	-0.03	0.06	-0.07	0.09	0.03	-0.01	-0.10
3) 病識	-0.07	0.02	-0.03	0.00	0.03	-0.06	-0.01	-0.05	-0.06
4) 対象行為の要因理解	-0.02	0.04	0.03	0.13	0.10	0.09	0.10	0.06	-0.21

表 26 【内省・洞察】小項目の結果一覧（6）10種の予測妥当性研究結果

内省・洞察の小項目	研究15 F法入院の予測	研究16 症状悪化入院の予測	研究17 問題行動の予測	研究19 退院後の暴力の予測	研究18 退院後の自傷・自殺企図の予測	研究20 入院時初回評価⇒院内暴力の予測	研究26 初回入院継続時評価⇒6ヶ月以降の院内暴力	研究21 入院時初回評価⇒院内自殺企図の予測	研究29 初回入院継続時評価⇒6ヶ月以降の院内自殺企図の予測	研究22 通院処遇への移行まで期間の予測
1) 対象行為への										ハザード比: 0.657
2) 対象行為以外の他害行為への内			0点の群<2点の群	0点の群<2点の群		ハザード比: 1.280				0点の群<1点の群, 2点の群
3) 病識										0点の群<1点の群<2点の群
4) 対象行為の要		ハザード比: 0.483		ハザード比: 1.564			ハザード比: 1.990			0点の群, 1点の群<2点の群

表 27 【生活能力】小項目の結果一覧（1）

生活能力の小項目	研究1 ICC (2,1)	研究2 記述統計						研究3 項目反応理論
		M	SD	0点人数	1点人数	2点人数	ステーション間比較	
1) 生活リズム	0.768	0.45	0.64	241	112	30	急>回>社	
2) 整容と衛生	0.772	0.43	0.66	256	90	37	急>回>社	
3) 金銭管理	0.791	0.65	0.76	202	114	67	急<回>社	
4) 家事や料理	0.696	0.76	0.76	168	139	76	急<回>社	
5) 安全管理	0.618	0.49	0.73	250	80	53	急>回>社	
6) 社会資源の利用	0.535	0.66	0.8	210	94	79	急<回>社	F0,その他>放火>殺人未遂、傷害
7) コミュニケーション	0.608	0.69	0.71	173	154	56	急>回>社	
8) 社会的引きこもり	0.684	0.59	0.72	210	121	52	急>回>社	
9) 孤立	0.710	0.79	0.75	157	151	75	急>回>社	
10) 活動性の低さ	0.672	0.53	0.67	218	126	39	急>回>社	
11) 生産的活動・役割	0.419	1.13	0.84	115	104	164	急<回>社	
12) 過度の依存	0.332	0.3	0.61	298	54	31	有意差なし	
13) 余暇を有効に過ごせない	0.568	0.58	0.7	207	129	47	急>回>社	F0,F3>F1
14) 施設への過剰適応	0.428	0.17	0.45	328	44	11	有意差なし	男>女

表 28 【生活能力】小項目の結果一覧（2）

生活能力の小項目	研究4 因子分析	研究5 入院長期化群と標準群の比較 t検定	研究6 ロジスティック回帰 Odds	研究6 ICF活動と参加因子との相関													
				GAFとの相関	身体快適性の確保	食事や体調の管理	健康の維持	調理	調理以外の家事	敬意と思いやり	感謝	寛容さ	批判	合図	身体的接触		
1) 生活リズム	第2因子			-0.31**	0.17**	0.21**	0.18**	0.1	0.12	0.17**	0.18**	0.17**	0.16**	0.1	0.11		
2) 整容と衛生	第6因子			-0.28**	0.53**	0.39**	0.36**	0.05	0.28**	0.23**	0.25**	0.14*	0.16**	0.16**	0.20**		
3) 金銭管理	第6因子			-0.30**	0.28**	0.32**	0.29**	0.04	0.25**	0.26**	0.25**	0.23**	0.15*	0.23**	0.12*		
4) 家事や料理	第6因子			-0.18**	0.39**	0.33**	0.23**	0.34**	0.42**	0.23**	0.20**	0.19**	0.16**	0.14*	0.08		
5) 安全管理	第6因子			-0.35**	0.41**	0.38**	0.37**	0.28**	0.37**	0.19**	0.17**	0.21**	0.21**	0.18**	0.16*		
6) 社会資源の利用	第6因子			-0.27**	0.26**	0.22**	0.25**	0.35**	0.35**	0.1	0.13*	0.08	0.14*	0.15**	0.1		
7) コミュニケーション	第2因子			-0.38**	0.29**	0.23**	0.27**	-0.03	0.16*	0.22**	0.22**	0.16**	0.27**	0.34**	0.23**		
8) 社会的引きこもり	第2因子			-0.44**	0.31**	0.25**	0.23**	0.07	0.23**	0.23**	0.22**	0.14*	0.25**	0.36**	0.22**		
9) 孤立	第2因子			-0.41**	0.31**	0.23**	0.23**	0.08	0.19**	0.24**	0.23**	0.19**	0.20**	0.30**	0.20**		
10) 活動性の低さ	第2因子			-0.41**	0.38**	0.34**	0.27**	0.24**	0.27**	0.26**	0.25**	0.15*	0.14*	0.33**	0.17**		
11) 生産的活動・役割	第2因子			-0.24**	0.17**	0.18**	0.12	0.29**	0.22**	0.05	0.07	0.01	0.13*	0.19**	0.12		
12) 過度の依存	第2因子			-0.17**	0.12*	0.23**	0.13*	0.11	0.13*	0.19**	0.12*	0.22**	0.12	0.11	0.08		
13) 余暇を有効に過ごせない	第2因子			-0.29**	0.24**	0.23**	0.19**	-0.04	0.09	0.26**	0.19**	0.15*	0.07	0.25**	0.20**		
14) 施設への過剰適応	第4因子			-0.08*	-0.06	0.02	0	0.07	0.02	0.05	0.02	0.12	0.1	0.04	0.11		

表 29 【生活能力】小項目の結果一覧（3）

生活能力の小項目	研究6 ICF活動と参加因子との相関													研究6 ICF環境因子との相関
	対人関係の形成	対人関係の終結	対人関係における行動の制限	社会的ルールに従った対人関係	社会的距離の維持	日課の管理	日課の達成	自分の活動レベルの管理	責任への対処	ストレスへの対処	危機への対処	基本的な経済的取引	複雑な経済的取引	
1) 生活リズム	0.14*	0.13*	0.21**	0.24**	0.21**	0.31**	0.30**	0.27**	0.22**	0.14*	0.13*	0.19**	0.09	0.15*
2) 整容と衛生	0.30**	0.12	0.32**	0.30**	0.19**	0.36**	0.41**	0.32**	0.22**	0.22**	0.17**	0.26**	0.07	0.14*
3) 金銭管理	0.21**	0.12*	0.32**	0.32**	0.35**	0.33**	0.29**	0.39**	0.30**	0.30**	0.20**	0.45**	0.21**	0.30**
4) 家事や料理	0.26**	0.32**	0.27**	0.24**	0.28**	0.35**	0.33**	0.35**	0.30**	0.24**	0.32**	0.33**	0.24**	0.23**
5) 安全管理	0.34**	0.25**	0.26**	0.27**	0.30**	0.39**	0.40**	0.34**	0.32**	0.26**	0.31**	0.41**	0.25**	0.25**
6) 社会資源の利用	0.17**	0.32**	0.19**	0.18**	0.18**	0.34**	0.29**	0.27**	0.25**	0.17**	0.28**	0.38**	0.29**	0.24**
7) コミュニケーション	0.34**	0.21**	0.26**	0.31**	0.35**	0.30**	0.25**	0.33**	0.19**	0.31**	0.14*	0.17**	-0.01	0.1
8) 社会的引きこもり	0.41**	0.20**	0.14*	0.19**	0.20**	0.32**	0.29**	0.34**	0.21**	0.24**	0.19**	0.18**	0.1	0.09
9) 孤立	0.43**	0.23**	0.16*	0.25**	0.24**	0.23**	0.27**	0.25**	0.20**	0.23**	0.19**	0.20**	0.03	0.08
10) 活動性の低さ	0.34**	0.24**	0.20**	0.18**	0.20**	0.44**	0.43**	0.41**	0.27**	0.20**	0.30**	0.26**	0.20**	0.18**
11) 生産的活動・役割	0.28**	0.29**	0.14*	0.19**	0.25**	0.21**	0.24**	0.33**	0.16**	0.16**	0.20**	0.24**	0.28**	0.21**
12) 過度の依存	0.14*	0.17**	0.22**	0.17**	0.36**	0.17**	0.13*	0.23**	0.16**	0.20**	0.19**	0.36**	0.15*	0.15**
13) 余暇を有効に過ごせない	0.32**	0.11	0.19**	0.22**	0.23**	0.23**	0.25**	0.32**	0.23**	0.22**	0.1	0.25**	0.06	0.1
14) 施設への過剰適応	0.08	0.09	0.04	0.03	0.11	0.07	0.03	0	0.05	0.08	0.05	0.22**	0.08	0.14*

表 30 【生活能力】小項目の結果一覧（4）

生活能力の小項目	研究7		研究8		研究9		研究10 BSI各因子との相関					
	P法再入院	退院後問題行動	入院継続時×退院時処遇		退院申請時×退院処遇の居住地	退院申請×退院処遇/処遇終了	1. 社会的リスクセメント	2. 洞察	3. コミュニケーションスキル	4. 作業とシミュレーション活動	5. セルケアと家族のケア	6. 共感
1) 生活リズム	有り>なし						-0.21	-0.05	-0.09	-0.07	-0.13	-0.09
2) 整容と衛生							-0.16	-0.26	-0.35	-0.31	-0.45	-0.32
3) 金銭管理			処遇終了>家族同居,単身				-0.16	-0.18	-0.18	-0.08	-0.26	-0.16
4) 家事や料理							-0.26	-0.19	-0.23	-0.30	-0.29	-0.22
5) 安全管理							-0.19	-0.33	-0.33	-0.33	-0.39	-0.30
6) 社会資源の利用			処遇終了,通院処遇-入院>家族同居				-0.11	-0.14	-0.25	-0.15	-0.25	-0.15
7) コミュニケーション							-0.07	-0.20	-0.31	-0.19	-0.21	-0.22
8) 社会的引きこもり							0.05	-0.10	-0.22	-0.19	-0.13	-0.08
9) 孤立							0.12	-0.20	-0.31	-0.32	-0.24	-0.23
10) 活動性の低さ							-0.07	-0.19	-0.29	-0.32	-0.25	-0.16
11) 生産的活動・役割			通院処遇-入院>家族同居				-0.13	-0.12	-0.22	-0.23	-0.18	-0.16
12) 過度の依存							-0.15	-0.27	-0.16	-0.22	-0.16	-0.24
13) 余暇を有効に過ごせない							-0.03	-0.28	-0.33	-0.40	-0.27	-0.29
14) 施設への過剰適応							-0.27	-0.03	-0.05	-0.12	-0.09	-0.10

表 31 【生活能力】小項目の結果一覧（5）

生活能力の小項目	研究11 SAI-Jとの相関	研究11 DAI-30との相関	研究12 SECLとの相関					研究13 生活満足度との相関							研究13 AUDIT, IQとの相関		
			日常生活	治療行動	症状対処行動	社会生活行動	対人関係	総得点	生活全般	身体的機能	環境	社会生活技能	対人交流	心理的機能	総合	AUDIT	IQ
1) 生活リズム			-0.10	-1.61*	-0.07	-0.09	-0.04	-0.12	-0.02	-0.06	0.00	-0.10	-0.24	-0.03	-0.09	-0.06	-0.07
2) 整容と衛生			-1.48*	-2.57**	-1.75*	-1.93**	-1.45*	-2.03**	-0.12	0.02	-0.05	0.01	-0.09	0.10	0.00	-0.13	-0.17
3) 金銭管理			-0.10	-1.73*	-1.54*	-1.86**	-1.67*	-1.80*	-0.13	0.04	0.04	-0.01	-0.13	0.01	-0.01	0.02	-0.32
4) 家事や料理			-1.48*	-0.11	-0.13	-2.23**	-0.13	-1.70*	-0.08	-0.01	0.02	-0.08	-0.10	0.02	-0.03	0.04	-0.23
5) 安全管理			-0.09	-2.07**	-0.13	-1.59*	-0.03	-1.50*	-0.08	-0.04	0.02	-0.11	0.02	0.11	0.01	-0.13	-0.22
6) 社会資源の利用			-0.04	-0.10	-0.11	-1.44*	-0.11	-0.12	-0.04	0.01	0.03	-0.07	-0.07	-0.04	-0.03	-0.01	-0.27
7) コミュニケーション			-0.12	-0.13	-0.13	-1.65*	-2.12**	-1.56*	-0.05	-0.04	-0.01	-0.08	-0.11	0.03	-0.04	0.02	-0.21
8) 社会的引きこもり			-1.90**	-1.55*	-0.13	-1.52*	-2.87**	-2.01**	0.03	-0.04	-0.03	-0.14	-0.21	-0.15	-0.12	0.01	-0.02
9) 孤立			-1.73*	-2.07**	-1.55*	-1.81*	-3.23**	-2.20**	-0.04	-0.04	-0.04	-0.16	-0.20	-0.05	-0.10	-0.14	-0.02
10) 活動性の低さ			-2.03**	-0.08	-0.09	-0.12	-1.71*	-1.76*	-0.02	-0.13	-0.04	-0.20	-0.16	-0.14	-0.16	0.02	-0.10
11) 生産的活動・役割			-0.12	-0.09	-0.08	-1.84**	-1.84**	-0.13	0.03	0.05	0.09	-0.04	-0.13	0.01	0.01	0.00	-0.02
12) 過度の依存			-0.10	-0.10	-0.09	-0.04	-0.04	-0.05	0.03	0.03	0.02	0.06	0.05	0.14	0.08	0.06	-0.10
13) 余暇を有効に過ごせない			-0.14	-0.12	-0.10	-0.10	-0.10	-1.40*	-0.08	-0.09	-0.07	-0.15	-0.04	-0.10	-0.11	-0.01	-0.02
14) 施設への過剰適応			-1.63*	-2.32**	-1.54*	-0.12	-0.12	-1.53*	0.14	0.04	0.02	0.02	-0.02	0.11	0.07	0.13	-0.08

表 32 【生活能力】小項目の結果一覧（6）10種の予測妥当性研究結果

生活能力の小項目	研究15 P法入院の予測	研究16 症状悪化入院の予測	研究17 問題行動の予測	研究19 退院後の暴力の予測	研究18 退院後の自傷・自殺企図の予測	研究20 入院時初回評価⇒院内暴力の予測	研究26 初回入院継続時評価⇒6ヶ月以降の院内暴力	研究21 入院時初回評価⇒院内自殺企図の予測	研究29 初回入院継続時評価⇒6ヶ月以降の院内自殺企図の予測	研究22 通院処遇への移行まで期間の予測
1) 生活リズム							0点の群, 1点の群<2点の群			0点の群<1点の群, 2点の群
2) 整容と衛生							0点の群<2点の群			ハザード比:0.682
3) 金銭管理	0点の群<1点以上の群		0点の群, 1点の群<2点の群	0点の群<1点以上の群						0点の群<2点の群
4) 家事や料理	0点の群<1点以上の群		0点の群<1点以上の群	0点の群<1点以上の群						ハザード比:0.775
5) 安全管理			0点の群<1点以上の群							ハザード比:0.823
6) 社会資源の利用			0点の群<1点以上の群			0点の群<2点の群				ハザード比:0.653
7) コミュニケーション										ハザード比:0.693
8) 社会的引きこもり										ハザード比:0.692
9) 孤立										ハザード比:0.731
10) 活動性の低さ										ハザード比:0.744
11) 生産的活動・役割			0点の群<1点以上の群	0点の群<1点以上の群						ハザード比:0.741
12) 過度の依存			0点の群<1点以上の群	0点の群<1点以上の群						ハザード比:0.741
13) 余暇を有効に過ごせない						ハザード比:1.315				ハザード比:0.803
14) 施設への過剰適応							0点の群<1点の群	0点の群<1点以上の群		ハザード比:0.624

表 33 【衝動コントロール】小項目の結果一覧（1）

衝動コントロールの小項目	研究1	研究2 記述統計						研究3				
	ICC (2.1)	M	SD	0点人数	1点人数	2点人数	ステージ間比較	男女差	年代差	診断分類差	対象行為差	項目反応理論
1) 一貫性のない行動	0.668	0.52	0.77	248	71	64	急>回>社				放火>殺人	
2) 待つことができない	0.612	0.39	0.67	273	69	41	急>回>社				放火>殺人	
3) 先の予測をしない	0.663	0.74	0.82	191	102	90	急>回>社				放火,強盗>殺人,殺人未遂	実施せず
4) そそのかされる	0.608	0.33	0.6	283	74	26	有意差なし					
5) 怒りの感情の行動化	0.645	0.6	0.8	232	74	77	急>回>社					

表 34 【衝動コントロール】小項目の結果一覧（2）

衝動コントロールの小項目	研究4	研究5 入院 長期化群と標 準群の比較	研究6	研究6 ICF活動 と参加因 子との相 関	研究6 ICF 環境 因子との 相関	研究7	研究8	研究9		
	因子分析	ロジス ティック 回帰 Odds	GAFと の相関			P法再入院	退院後問 題行動	入院継続 時×退院 時処遇	退院申請 時×通院 処遇の居 住地	退院申請 時×通院 処遇の居 住地
1) 一貫性のない行動	第4因子									
2) 待つことができない	第4因子									
3) 先の予測をしない	第4因子									
4) そそのかされる	第4因子									
5) 怒りの感情の行動化	第6因子									

表 35 【衝動コントロール】小項目の結果一覧（3）

衝動コントロールの小項目	研究10 BSI各因子との相関						研究11 SAI-Jとの 相関	研究11 DAI-30と の相関	研究12 SECLとの相関					
	1. 社会 的リスク テスト	2. 洞察	3. コミュ ニケーション とソーシャル スキル	4. 作業 とレクリエ ーション活 動	5. セルフ ケアと家 族のケア	6. 共感			日常生活	治療 行動	症状 対処 行動	社会 生活 行動	対人 関係 行動	総得点
1) 一貫性のない行動	-0.22	-0.08	-0.01	0.04	0.00	-0.09			0.03	-0.06	-0.03	0.08	0.09	0.02
2) 待つことができない	-0.26	-0.12	-0.07	-0.09	-0.14	-0.14			0.04	-0.05	-0.03	0.04	0.07	0.03
3) 先の予測をしない	-0.23	-0.14	-0.13	-0.17	-0.15	-0.22			0.05	-0.01	0.03	0.02	0.11	0.05
4) そそのかされる	-0.05	-0.03	-0.11	-0.12	-0.14	-0.06			0.03	-0.07	-0.04	0.01	0.02	-0.02
5) 怒りの感情の行動化	-0.36	-0.24	-0.17	-0.18	-0.18	-0.22			0.02	-0.01	-0.02	0.07	0.07	0.03

表 36 【衝動コントロール】小項目の結果一覧（4）

衝動コントロールの小項目	研究13 生活満足度との相関							研究13 AUDIT, IQとの相関	
	生活全般	身体的 機能	環境	社会生 活技能	対人交流	心理的 機能	総合	AUDIT	IQ
1) 一貫性のない行動	-0.01	0.07	0.02	0.03	-0.08	0.10	0.04	0.00	-0.24
2) 待つことができない	0.04	0.09	0.04	0.05	-0.03	0.20	0.09	-0.04	-0.27
3) 先の予測をしない	-0.06	0.02	-0.01	0.02	-0.03	0.13	0.03	0.00	-0.25
4) そそのかされる	0.04	0.06	0.10	0.01	-0.11	-0.02	0.02	0.02	-0.19
5) 怒りの感情の行動化	-0.06	0.10	0.04	0.03	-0.04	0.03	0.03	-0.08	-0.16

表 37 【衝動コントロール】小項目の結果一覧（5）10種の予測妥当性研究結果

衝動コントロールの小項目	研究15 F法 入院の予測	研究16 症状 悪化入院の 予測	研究17 問題 行動の予測	研究19 退院 後の暴力の予 測	研究18 退院 後の自傷・自 殺企図の予測	研究20 入院時 初回評価 ⇒院内暴力の予 測	研究26 初回入院 継続時評価⇒6ヶ 月以降の院内暴力 の予測	研究21 入院時 初回評価 ⇒院内自殺企図 の予測	研究29 初回入院継 続時評価 ⇒6ヶ月以降の院内自 殺企図の予測	研究22 通院処遇への移 行まで期間の予測
1) 一貫性のない行動	0点の群<1点以上の群	0点の群<1点以上の群	0点の群<1点以上の群	0点の群<1点以上の群			0点の群<2点の群	0点の群<1点の群, 2点の群		ハザード比:0.793
2) 待つことができない	0点の群<1点以上の群	0点の群<1点以上の群	0点の群<1点以上の群	0点の群<1点以上の群						0点の群, 1点の群<2点の群
3) 先の予測をしない	0点の群<1点以上の群	0点の群<1点以上の群	0点の群<1点以上の群	0点の群<1点以上の群						0点の群, 1点の群<2点の群
4) そそのかされる	0点の群<1点以上の群	0点の群<1点以上の群	0点の群<1点以上の群	0点の群<1点以上の群			0点の群<1点の群, 2点の群			
5) 怒りの感情の行動化	0点の群<1点以上の群	0点の群<1点以上の群	0点の群<1点以上の群	0点の群<1点以上の群			0点の群<2点の群			0点の群<2点の群

表 38 【非社会性】小項目の結果一覧（1）

非社会性的小項目	研究1	研究2 記述統計							研究3 項目反 応理論
	ICC (2,1)	M	SD	0点 人数	1点 人数	2点 人数	ステーション間 比較	男女差 年代差 診断分類差 対象行為差	
1) 侮辱的な言葉	0.032	0.07	0.31	363	14	6	有意差なし		
2) 社会的規範の蔑視	0.323	0.2	0.52	326	37	20	有意差なし	F1 > F0, F2, F3	
3) 犯罪志向的態度	0.258	0.09	0.36	358	16	9	有意差なし	30代<20	
4) 特定の人を書する	0.391	0.16	0.46	338	30	15	急<回>社		
5) 他者を脅す	0.329	0.11	0.41	354	16	13	急<回>社		
6) だます、嘘を言う	0.582	0.12	0.36	343	35	5	有意差なし	F1 > F2	
7) 故意の器物破損	0.455	0.08	0.36	362	11	10	急>社		
8) 犯罪的交友関係	0.501	0.07	0.3	364	13	6	有意差なし	F1 > F2, その他	
9) 性的逸脱行動	0.721	0.11	0.39	352	20	11	急>社		性>殺人, 殺人未遂, 傷害, 強盗, 放火
10) 放火の兆し	0.333	0.09	0.4	365	3	15	急>社		放火>殺人, 殺人未遂, 傷害, 性

表 39 【非社会性】小項目の結果一覧（2）

非社会性の小項目	研究4	研究5 入院長期化群と標準群の比較	研究6	研究6 ICF活動と参加因子との相関	研究6 ICF環境因子との相関	研究7	研究8	研究9		
	因子分析	t検定	ロジスティック回帰 Odds	GAFとの相関		P法再入院	退院後問題行動	入院継続時×退院時 処遇	退院申請×通院 処遇の居住地	退院申請×通院 処遇/処遇終了
1) 侮辱的な言葉	第3因子									
2) 社会的規範の蔑視	第3因子							処遇終了> 家族同居		
3) 犯罪志向的態度	第3因子									
4) 特定の人を害する	第3因子									
5) 他者を脅す	第3因子									
6) だます、嘘を言う	第3因子									
7) 故意の器物破損	第15因子									
8) 犯罪的交友関係	第3因子									
9) 性的逸脱行動	第3因子									
10) 放火の兆し	第15因子									

表 40 【非社会性】小項目の結果一覧（3）

非社会性の小項目	研究10 BSI各因子との相関						研究11 SAI-J との相関	研究11 DAI-30 との相関	研究12 SECLとの相関					
	1. 社会的リスクセグメント	2. 洞察	3. コミュニケーションとソーシャルスキル	4. 作業とレクリエーション活動	5. セルフケアと家族のケア	6. 共感			日常生活	治療行動	症状対処行動	社会生活行動	対人関係	総得点
1) 侮辱的な言葉	-0.13	-0.04	-0.05	-0.04	-0.06	-0.11			0.06	0.04	0.06	0.05	0.05	0.05
2) 社会的規範の蔑視	-0.21	-0.05	-0.12	-0.12	-0.10	-0.09			.141*	0.10	0.08	.209*	.170*	.151*
3) 犯罪志向的態度	-0.20	0.02	-0.06	-0.04	-0.14	-0.06			0.01	-0.05	-0.01	0.04	0.04	-0.01
4) 特定の人を害する	-0.24	-0.06	0.04	-0.05	-0.07	-0.10			0.02	0.11	0.08	0.10	0.07	0.08
5) 他者を脅す	-0.41	-0.02	-0.08	-0.05	-0.06	-0.14			0.11	0.13	0.10	.155*	0.11	0.13
6) だます、嘘を言う	-0.38	-0.02	0.00	-0.05	-0.02	-0.08			0.13	.154*	.141*	.157*	.177*	.172*
7) 故意の器物破損	-0.23	-0.16	-0.23	-0.19	-0.24	-0.13			-0.06	-0.04	-0.01	0.06	0.01	-0.02
8) 犯罪的交友関係	-0.07	0.13	0.11	0.08	0.16	0.09			0.11	0.06	0.08	0.12	0.11	0.11
9) 性的逸脱行動	-0.35	-0.19	-0.09	-0.11	-0.18	-0.23			-0.07	-0.05	-0.02	-0.10	-0.10	-0.08
10) 放火の兆し	0.00	-0.11	-0.30	-0.09	-0.17	-0.08			-0.10	-0.12	-0.08	-0.07	-0.13	-0.12

表 41 【非社会性】小項目の結果一覧（4）

非社会性の小項目	研究13 生活満足度との相関							研究13 AUDIT, IQとの相関	
	生活全般	身体的機能	環境	社会生活技能	対人交流	心理的機能	総合	AUDIT	IQ
1) 侮辱的な言葉	-0.04	0.01	0.04	-0.05	-0.07	-0.01	-0.02	-0.05	-0.07
2) 社会的規範の蔑視	0.06	0.04	0.07	0.09	0.11	0.21	0.14	0.02	-0.06
3) 犯罪志向的態度	-0.02	-0.03	0.03	0.02	0.01	0.10	0.04	-0.02	-0.12
4) 特定の人を害する	-0.05	0.08	0.02	0.03	0.07	0.10	0.07	0.03	-0.01
5) 他者を脅す	-0.08	0.00	-0.03	0.01	-0.05	0.04	-0.01	0.01	-0.18
6) だます、嘘を言う	0.03	0.04	0.08	0.06	0.07	0.07	0.08	0.17	-0.16
7) 故意の器物破損	0.03	0.12	0.07	0.03	0.03	0.08	0.08	-0.06	-0.22
8) 犯罪的交友関係	-0.08	-0.13	-0.08	-0.04	-0.14	-0.03	-0.10	-0.06	-0.08
9) 性的逸脱行動	-0.08	0.02	0.01	0.04	0.12	0.13	0.07	0.03	-0.09
10) 放火の兆し	0.02	0.10	0.00	-0.01	0.01	0.03	0.04	-0.04	-0.19

表 42 【非社会性】小項目の結果一覧（5）10種の予測妥当性研究結果

非社会性の小項目	研究15 P法入院 の予測	研究16 症状悪化 入院の予測	研究17 問題行動 の予測	研究19 退院後の 暴力の予測	研究18 退院 後の自傷・自 殺企図の予測	研究20 入院 時初回評価 ⇒院内暴力の 予測	研究26 初回入 院継続時評価 ⇒6ヶ月以降の 院内暴力	研究21 入院 時初回評価 ⇒院内自殺企 図の予測	研究29 初回入院 継続時評価 ⇒6ヶ月以降の院内 自殺企図の予測	研究22 通院処遇への 移行まで期間の予測
1) 侮辱的な言葉						0点の群<1点以上の群				
2) 社会的規範の蔑視										
3) 犯罪志向的態度										
4) 特定の人を害する						0点の群<2点の群				ハザード比:0.668
5) 他者を脅す	p<0.05		p<0.05	p<0.05		0点の群<2点の群				0点の群<1点の群, 2点の群
6) だます、嘘を言う	p<0.05	p<0.05	p<0.05							ハザード比:734
7) 故意の器物破壊	p<0.05	p<0.05	p<0.05	p<0.05		0点の群<2点の群	0点の群<1点以上の群			0点の群<2点の群
8) 犯罪的交友関係	p<0.05	p<0.05								
9) 性的逸脱行動				p<0.05						ハザード比:0.627
10) 放火の兆し		p<0.05								

表 43 【現実的計画】小項目の結果一覧（1）

現実的計画の小項目	研究1 研究2 記述統計										研究3 項目反 応理論	
	ICC (2,1)	M	SD	0点 人数	1点 人数	2点 人数	ステージ間 比較	男女差	年代差	診断分 類差		対象行為差
1) 退院後の治療プ ランへの同意	0.82	1.61	0.69	45	58	280	急<回>社					
2) 日中活動	0.89	1.67	0.66	40	46	297	急<回>社				殺人,殺人未遂,傷害,強盗,放火>性	
3) 住居	0.80	1.46	0.77	67	71	245	急<回>社				殺人,殺人未遂,傷害,放火>性	
4) 生活費	0.59	0.89	0.82	150	124	109	急>回<社					
5) 緊急時の対応	0.90	1.76	0.6	35	21	327	急<回>社				殺人,殺人未遂,傷害,強盗,放火>性	実施せず
6) 関係機関との連 携・協力体制	0.92	1.66	0.66	41	47	295	急<回>社					
7) キーパーソン	0.62	1.2	0.76	80	148	155	回>社		20代<40			
8) 地域への受け入 れ体制	0.87	1.67	0.67	44	39	300	急<回>社					

表 44 【現実的計画】小項目の結果一覧（2）

現実的計画の小項目	研究4	研究5 入院長 期化群と標準	研究6	研究6 研究6 ICF活動と ICF 環境 参加因子 因子との との相関 相関	研究7	研究8	研究9		
	因子分析	t検定	ロジス ティック 回帰 Odds	GAFと の相関	P法再 入院	退院後 問題行 動	入院継続時×退院時 処遇	退院申請 時×通院 処遇の居 住地	退院申請 ×通院処 遇/処遇 終了
1) 退院後の治療プ ランへの同意	第1因子								
2) 日中活動	第1因子								
3) 住居	第17因子						施設入所> 単身 施設入所> 家族同居		
4) 生活費	第16因子								
5) 緊急時の対応	第1因子		実施せ ず	実施せず					実施せず
6) 関係機関との連 携・協力体制	第1因子								
7) キーパーソン	第11因子								
8) 地域への受け入 れ体制	第1因子								

表 45 【現実的計画】小項目の結果一覧（3）

現実的計画の小項目	研究10 BSI各因子との相関						研究11 研究11 SAI-J DAI-30 との 相関 相関	研究12 SECLとの相関					
	1. 社会 的リスク セメント	2. 洞察	3. コミュ ニケーション とソーシャル スキル	4. 作業 とレクリエ ーション活 動	5. セル フケアと家 族のケア	6. 共感	日常生活 治療 行動	治療 行動	症状 対処 行動	社会 生活 行動	対人 関係	総得点	
1) 退院後の治療プ ランへの同意	-0.07	-0.16	-0.19	-0.11	-0.17	-0.19		-0.10	-0.08	-0.02	-0.07	-0.05	-0.08
2) 日中活動	-0.07	-0.13	-0.18	-0.16	-0.15	-0.18		-0.11	-0.06	-0.02	-0.07	-0.07	-0.08
3) 住居	-0.10	-0.08	-0.15	-0.20	-0.16	-0.16		-0.02	0.04	-0.02	0.00	0.07	0.03
4) 生活費	0.03	-0.08	-0.04	-0.04	-0.04	-0.11		-0.13	-0.09	-0.11	-0.01	0.00	-0.11
5) 緊急時の対応	-0.03	-0.10	-0.19	-0.16	-0.23	-0.20	実施せず	-0.19	-0.12	-0.08	-0.11	-0.10	-0.14
6) 関係機関との連 携・協力体制	-0.05	0.02	0.00	-0.01	-0.01	0.05		-0.14	-0.04	-0.06	-0.10	-0.12	-0.13
7) キーパーソン	-0.13	-0.11	-0.07	-0.17	-0.08	-0.06		-0.17	0.02	-0.04	-0.02	-0.06	-0.07
8) 地域への受け入 れ体制	-0.06	-0.14	-0.20	-0.17	-0.23	-0.19		-0.20	-0.11	-0.09	-0.05	-0.06	-0.13

表 46 【現実的計画】小項目の結果一覧（4）

現実的計画の小項目	研究13 生活満足度との相関							研究13 AUDIT, IQとの	
	生活全般	身体的機能	環境	社会生活技能	対人交流	心理的機能	総合	AUDIT	IQ
1) 退院後の治療プランへの同意	-0.02	-0.02	-0.04	-0.01	-0.04	-0.03	-0.04	0.06	-0.01
2) 日中活動	-0.05	-0.09	-0.04	-0.03	-0.06	-0.06	-0.06	0.08	-0.03
3) 住居	0.05	0.02	0.09	0.08	-0.03	0.06	0.07	0.06	0.03
4) 生活費	-0.16	-0.11	-0.24	-0.17	-0.04	-0.18	-0.20	0.09	-0.02
5) 緊急時の対応	-0.06	-0.03	-0.05	-0.04	-0.05	-0.06	-0.05	0.07	0.00
6) 関係機関との連携・協力体制	-0.06	-0.13	-0.12	-0.16	-0.11	-0.12	-0.16	0.13	0.04
7) キーパーソン	-0.04	-0.07	0.04	-0.05	-0.09	-0.04	-0.04	0.10	-0.01
8) 地域への受け入れ体制	-0.09	-0.08	-0.09	-0.09	0.01	-0.06	-0.07	0.09	-0.07

表 47 【現実的計画】小項目の結果一覧（5）10種の予測妥当性研究結果

現実的計画の小項目	研究15 P法入院の予測	研究16 症状悪化入院の予測	研究17 問題行動の予測	研究19 退院後の暴力の予測	研究18 退院後の自傷・自殺企図の予測	研究20 入院時初回評価⇒院内暴力の予測	研究26 初回入院継続時評価⇒6ヶ月以降の院内暴力	研究21 入院時初回評価⇒院内自殺企図の予測	研究29 初回入院継続時評価⇒6ヶ月以降の院内自殺企図の予測	研究22 通院処遇への移行まで期間の予測
1) 退院後の治療プランへの同意										1点以下の群<2点の群
2) 日中活動										0点の群<2点の群
3) 住居										
4) 生活費								ハザード比: 1.499		
5) 緊急時の対応										
6) 関係機関との連携・協力体制										
7) キーパーソン										
8) 地域への受け入れ体制										

表 48 【治療・ケアの継続性】小項目の結果一覧（1）

治療・ケアの継続性の小項目	研究1	研究2 記述統計							研究3 項目反応理論		
	ICC (2,1)	M	SD	0点人数	1点人数	2点人数	ステージ間比較	男女差	年代差	診断分類差	対象行為差
1) 治療同盟	0.61	0.9	0.8	144	140	99	急>回>社			F0>F1,F2,その他	
2) 予防	0.89	1.6	0.7	37	67	279	急<回>社				
3) モニター	0.93	1.7	0.7	40	45	298	急<回>社				
4) セルフモニタリング	0.85	1.5	0.6	29	118	236	急<回>社		20代<50代		
5) 緊急時の対応	0.94	1.7	0.6	27	54	302	急<回>社				

表 49 【治療・ケアの継続性】小項目の結果一覧（2）

治療・ケアの継続性の小項目	研究4	研究5 入院長期化群と標準群の比較	研究6	研究6 ICF活動と参加因子との相関	研究6 ICF環境因子との相関	研究7	研究8	研究9		
	因子分析	t検定	ロジスティック回帰 Odds	GAFとの相関		P法再入院	退院後問題行動	入院継続時×退院時処遇	退院申請時×通院処遇の居住地	退院申請時×通院処遇の居住地
1) 治療同盟	第9因子									
2) 予防	第9因子									
3) モニター	第9因子									
4) セルフモニタリング	第9因子									
5) 緊急時の対応	第9因子									

表 50 【治療・ケアの継続性】小項目の結果一覧（3）

治療・ケアの継続性の小項目	研究10 BSI各因子との相関						研究11 SAI-Jとの相関	研究11 DAI-30との相関	研究12 SECLとの相関					
	1. 社会的リスクアセスメント	2. 洞察	3. コミュニケーションとソーシャルスキル	4. 作業とレクリエーション活動	5. セルフケアと家族のケア	6. 共感			日常生活	治療行動	症状対処行動	社会生活行動	対人関係	総得点
1) 治療同盟	-0.09	-0.13	-0.14	-0.13	-0.16	-0.20	実施せず	-0.10	-0.02	-0.07	-0.04	-0.11	-0.09	
2) 予防	-0.14	-0.19	-0.16	-0.17	-0.21	-0.17		-0.12	-0.07	-0.12	-0.11	-0.04	-0.11	
3) モニター	-0.15	-0.18	-0.12	-0.16	-0.20	-0.13		-0.12	-0.05	-0.07	-0.10	-0.06	-0.09	
4) セルフモニタリング	-0.17	-0.21	-0.17	-0.18	-0.18	-0.21		-0.20	-0.06	-0.09	-0.12	-0.05	-0.15	
5) 緊急時の対応	-0.12	-0.11	-0.08	-0.11	-0.18	-0.09		-0.04	0.01	-0.05	-0.07	-0.01	-0.04	

表 51 【治療・ケアの継続性】小項目の結果一覧（4）

治療・ケアの継続性の小項目	研究13 生活満足度との相関							研究13 AUDIT, IQとの	
	生活全般	身体的機能	環境	社会生活技能	対人交流	心理的機能	総合	AUDIT	IQ
1) 治療同盟	-0.05	-0.12	0.02	-0.08	-0.09	-0.09	-0.08	-0.09	-0.01
2) 予防	-0.05	-0.07	-0.03	-0.09	-0.09	-0.13	-0.10	0.08	-0.11
3) モニター	-0.04	-0.10	-0.01	-0.09	-0.10	-0.12	-0.10	0.07	-0.11
4) セルフモニタリング	-0.15	-0.17	-0.08	-0.13	-0.07	-0.17	-0.16	-0.03	-0.08
5) 緊急時の対応	-0.02	-0.07	0.00	-0.07	-0.08	-0.08	-0.07	0.09	0.01

表 52 【治療・ケアの継続性】小項目の結果一覧（5）10種の予測妥当性研究結果

治療・ケアの継続性の小項目	研究15 F法入院の予測	研究16 症状悪化入院の予測	研究17 問題行動の予測	研究19 退院後の暴力の予測	研究18 退院後の自傷・自殺企図の予測	研究20 入院時初回評価⇒院内暴力の予測	研究26 初回入院継続時評価⇒6ヶ月以降の院内暴力	研究21 入院時初回評価⇒院内自殺企図の予測	研究29 初回入院継続時評価⇒6ヶ月以降の院内自殺企図の予測	研究22 通院処遇への移行まで期間の予測
1) 治療同盟								ハザード比: 1.909		0点の群<1点の群
2) 予防										
3) モニター										
4) セルフモニタリング										
5) 緊急時の対応										

第11章

共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究(42)～第3版案の評定者間一致度の検証

目的

2013年に始まる本研究は、共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究を推し進め、標準化された尺度として改訂することを目的として行ってきた。3ヶ年の研究のうち1年目には768名分のデータを収集し、そのうち通院処遇に移行した432名分のデータを用いて共通評価項目の中項目および小項目それぞれの問題事象への予測力を評価した¹⁾。更に本研究2年目には、上記研究結果ならびにこれまでの研究結果を踏まえ、第3版案を作成した²⁾。共通評価項目第3版案の構成を表1に示す。第3版案は本研究2年目の報告書²⁾第10章「共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究(32)～改訂案の作成とベータテスト」に示した通り、第2版の評定者間一致度の研究³⁾において級内相関係数(ICC(2,1))が0.6未満であった項目、および、収束妥当性の研究⁴⁾において妥当性の問題が示唆された項目を修正するとともに、本研究1年目の報告書¹⁾第1章「共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究(4)～因子分析による検討」に示した因子分析結果に従って項目の配列を変更した。それに伴い、第2版での【生活能力】の中項目を【日常生活能力】と【活動性・社会性】の2つの中項目に分割するなどの改訂を行った。

このようなプロセスで項目の改訂を行った結果、第3版案の項目にはこれまでの研究で十分な評定者間一致度が得られ、改訂していない項目と、項目のアンカーポイントの修正を行ったため、ないし新規に項目を作成したために評定者間一致度の検証が必要な項目とが混在する構成となった。表1内にアンカーポイントを修正した項目、ないし新規に追加

した項目についてはその旨を付記した。なお、上記のように2つの中項目に分割した【生活能力】をはじめ、7つの項目はアンカーポイントの修正をすると共に項目名を第2版から変更している。その点についても表1に付記した。

本研究では共通評価項目第3版案の作成において新規に作成した項目、ならびにアンカーポイントの修正を行った項目について評定者間一致度(ICC(2,1))の検証を行い、評定者間信頼性の確認を行うことを目的とする。本研究において第3版案の各項目について十分な評定者間一致度が確認されれば、第3版として改訂を行うことが可能になる。

方法

a. 評定用事例集の作成

評定者間一致度を算出するため、まず評定用の事例を作成した。評定用事例の作成と評定のため、2014年12月6-7日に研究協力者会議を行い、医療観察法指定入院医療機関にて従事する臨床心理技術者に第3版案の伝達を行うとともに、2事例の評定演習とフィードバックを含んだ研修を行った。この伝達研修に参加した臨床心理技術者に評定用事例の作成を依頼した。事例は医療観察法入院処遇となった事例を元にしつつ、住所・氏名など固有名詞を除き、可能な範囲で情報を改変した。また共通評価項目の評定値を分散させるため、入院時(急性期)、回復期へのステージ移行時、社会復帰期へのステージ移行時、退院申請時の4つの時期に分け、各12例、計48例が作成された。

事例の様式は、第2版の評定者間一致度の検証³⁾の際と同様、個人を特定できる情報を

除き、対象者の性別、診断名、対象行為、簡単な病歴、評価期間中の臨床情報からなり、この臨床情報は共通評価項目第3版案の19の中項目ごとに分けて記載された。

b. 評定方法と評定者について

評定者間一致度算出のための事例の評定者は、第2版の評定者間一致度の検証³⁾の際と同様、医療観察法指定入院医療機関に従事する臨床心理技術者とし、上記2014年12月6-7日に研究協力者会議にて行った、2事例の評定演習とフィードバックを含んだ約7時間の伝達研修全てに参加した24人が評定者となった。この24人が前記の評定用事例について、第3版案の19中項目と46小項目全てを評定した。

c. 評定者間信頼性の指標について

本研究では第2版の評定者間一致度の検証³⁾の際と同様、評定者間信頼性の指標として級内相関係数二元配置変量効果モデル(ICC(2,1))を用いた。第3版案でも評定が「問題なし=0点」「軽度の問題=1点」「明らかな問題あり=2点」の3段階評価であり、順序尺度であるが、PCL-Rの信頼性研究⁵⁾やHCR-20の信頼性研究の多くに級内相関係数が用いられている⁶⁾ことに倣い、3段階の間隔尺度と見做して解析を行った。また複数の事例に対して複数の臨床心理技術者が1回ずつ評定を行うという二元配置変量効果モデルであるためにICC(2,1)を用いて解析を行っている。

なお共通評価項目第2版において「2点は特別な場合に限る」というルールがあった【共感性】および【治療効果】については、いずれも第2版の評定者間一致度の検証³⁾の際に十分な評定者間一致度が得られなかったため、「2点は特別な場合に限る」というルールは削除した。それ故、第2版よりも評定が等間

隔に近づいていることが期待される。

統計解析にはエクセル統計2015を使用した。

d. 倫理的な配慮

多機関の研究協力者と共有する評定用事例については、住所・氏名ならびに会社名・学校名・地名等個人の特定につながるような個人情報情報は削除し、尺度の評定に支障のない範囲で事例の内容を改変して評定用事例とすることで、個人を特定できないようにした。発表には統計的な値のみを発表し、一事例の詳細な情報を発表することはしない。以上の配慮をもって、研究代表者の所属施設である肥前精神医療センターの承認を得て本研究を実施した。

結果

共通評価項目第3版案の19中項目ならびに46小項目それぞれの級内相関係数(ICC(2,1))を表1に示した。表1では本研究でのICC(2,1)とともに、95%信頼区間の値を示し、また、第2版の評定者間一致度の研究³⁾でのICC(2,1)を併記した。表1に示した級内相関係数の算出に用いた事例(Subject)は48例であり、評定者(Rater)は24人であるが、表1中【非精神病性症状1)興奮】、【衝動コントロール4)そそのかされる】、【物質乱用】の3項目にはそれぞれ1箇所の欠損値があり、【認知機能】には2箇所の欠損値があった。欠損値処理に当たっては第2版の評定者間一致度の検証³⁾の際と同様、評定事例数を減らさないために当該項目の評定者を削除した。そのため【非精神病性症状1)興奮】、【衝動コントロール4)そそのかされる】、【物質乱用】の3項目は評定者数が23人、【認知機能】は評定者数が22人となり、その他の項目は評定者が24人である。

表1に示す通り、第2版の評定者間一致度

の検証³⁾の際に級内相関係数(ICC(2,1))が0.6未満であった13項目、小項目の構成を変更したために評定者間一致度の再検証が必要となった【非精神病性症状】【日常生活能力】【活動性・社会性】(左記3項目は第2版での評定者間一致度は0.6未満であった)【現実的計画】【治療・ケアの継続性】の5項目、第2版の評定者間一致度は0.6以上であったが概念の修正を行った【アドヒアランス】【治療・ケアの継続性2)予防】【治療・ケアの継続性5)クライシスプラン】の3項目、新規に構成した【認知機能】【認知機能2)認知機能の偏り】【活動性・社会性6)生活のバランス】の3項目、合わせて21項目は全て級内相関係数(ICC(2,1))0.6以上となった。

一方で、表1から【活動性・社会性2)コミュニケーション技能】は $ICC(2,1)=0.580$ 、【衝動コントロール1)一貫性のない行動】は $ICC(2,1)=0.578$ と0.6をわずかに下回った。この2項目はいずれも第2版からの改変を行っておらず、第2版の評定者間一致度の検証³⁾の際には級内相関係数(ICC(2,1))がそれぞれ0.608、0.668と0.6を超え十分な信頼性が示されていた項目である。その他の項目は全て級内相関係数が0.6を超え、十分な値が得られた。

考察

本研究は共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究の一つの締めくくりとして、作成された第3版案の評定者間一致度の検証を行ったものである。その結果、第3版案の19の中項目は全てが0.6以上の十分な評定者間一致度が得られ、小項目でも【活動性・社会性2)コミュニケーション技能】と【衝動コントロール1)一貫性のない行動】を除く44項目にて0.6以上の十分な評定者間一致度が得られた。【活動性・社会性2)コミュニケーション技能】と【衝動コントロール1)一貫性のない行動】

【活動性・社会性2)コミュニケーション技能】は $ICC(2,1)=0.580$ 、 $ICC(2,1)=0.578$ とわずかに0.6を下回ったが、いずれも第2版からの改訂を行っていない項目で、第2版の評定者間一致度の検証³⁾の際には級内相関係数(ICC(2,1))がそれぞれ0.608、0.668と0.6を超え十分な信頼性が示されていた項目である。それ故にこの2項目の評定者間信頼性に問題があるとは必ずしも言えない。Holzingerら(2013)によるHCR-20第3版の下位項目の級内相関係数の検証結果⁶⁾で、0.5を下回る項目が6項目あったこと、DouglasらによるHCR-20第2版の下位項目の級内相関係数の検証結果⁷⁾で級内相関係数(ICC₂)が0.6を下回る項目が5項目あったことと比べても、高い水準の評定者間信頼性が得られていると言える。Landis and Koch(1977)の κ 係数についての基準⁸⁾と照らし合わせると、Moderateの水準(0.41~0.60)が2項目、Substantialの水準(0.61~0.80)が36項目、Almost Perfectの水準(0.80~1.00)が27項目であり、この点からも高い水準の評定者間信頼性が得られていると言える。上記のように級内相関係数が今回0.6に満たなかった項目は前回の検証において0.6を超えており、明らかに信頼性が不足する項目は第3版案にはないと言える。

以上のことから、本研究において作成された共通評価項目第3版案は高い評定者間信頼性が維持されており、これをもって第3版として改訂することにより、科学的裏付けを持った尺度として共通評価項目を編成することが可能になる。さらにはエビデンスに基づいた医療観察法医療につなげることができる。よって今後は本研究で示された第3案を新しい共通評価項目として頒布し、全国で使用されることが求められる。

文献

- 1) 壁屋康洋・高橋昇・西村大樹・砥上恭子・松原弘泰・小片圭子・山本哲裕・荒井宏文・深瀬亜矢・鈴木敬生・今村扶美・瀬底正有・竹本浩子・中尾文彦・野村照幸・大原薫・松下亮・中川桜・堀内美穂・古賀礼子・河西宏実・畔柳真理・常包知秀・横田聡子・長井史紀・前上里泰史・占部文香・高野真弘・有馬正道・天野昌太郎・大賀礼子・桑本雅量・藤田美穂・笠井正一・富山孝・島田雅美・小川佳子・古野悟志・山内健一郎・菊池安希子：平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合 研究事業）医療観察法対象者の円滑な社会復帰に関する研究【若手育成型】医療観察法指定医療機関ネットワークによる共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究 平成 25 年度総括研究報告書, 2014.
- 2) 壁屋康洋、高橋昇、砥上恭子、西村大樹、平林直次、永田貴子、村杉謙次、下里誠司、三澤剛、石井利樹、松原弘泰、小片圭子、山本哲裕、荒井宏文、深瀬亜矢、鈴木敬生、今村扶美、川地拓、瀬底正有、竹本浩子、中尾文彦、野村照幸、大原薫、松下亮、中川桜、堀内美穂、古賀礼子、北靖恵、河西宏実、畔柳真理、常包知秀、横田聡子、長井史紀、前上里泰史、前田愛、占部文香、高野真弘、有馬正道、天野昌太郎、大賀礼子、桑本雅量、西川啓祐、松本美奈子、藤田美穂、笠井正一、富山孝、島田雅美、栗原真弓、小川佳子、古野悟志、北湯口孝、田中さやか、山内健一郎、菊池安希子：平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合 研究事業）医療観察法対象者の円滑な社会復帰に関する研究【若手育成型】医療観察法指定医療機関ネットワークによる共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究 平成 26 年度総括研究報告書, 2015.
- 3) 高橋昇、壁屋康洋、西村大樹、砥上恭子ら：共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究（1）評定者間一致度の検証. 司法精神医学,7,23-31:2012.
- 4) 壁屋康洋、高橋昇、西村大樹、砥上恭子、野村照幸、古村健、箕浦由香、前上里泰史、朝波千尋、宮田純平：共通評価項目の信頼性と妥当性に関する研究（6）収束妥当性の検証. 司法精神医学,8：20-29,2013.
- 5) Hare,R.D. :PCL-R 2nd Edition, Multi-Health System Inc., Toronto, Canada, 2003－西村由貴（訳）,PCL-R 第2版 日本語版テクニカルマニュアル 金子書房,東京,2004
- 6) Douglas,K.S., Shafer,C., Blanchard,A.J.E., Guy,L.S., Reeves,K.A., & Weir,J.: HCR-20 Violence Risk Assessment Scheme : Overview and Annotated Bibliography (Visit <http://kdouglas.wordpress.com> for updates),2014.
- 7) Douglas,K.S., Ogloff,J.R.P., Hart,S. : Evaluation of a Model of Risk Assessment Among Forensic Psychiatric Patients. *Psychiatric Services*,54. 1372-1379,2003
- 8) SKETCH 研究会 統計分科会:臨床データの信頼性と妥当性 サイエンティスト社,東京, 2005

表1 共通評価項目第3版の級内相関係数および第2版との比較

第3版 項目名	ICC (2.1)	95%信頼区間 下限値	95%信頼区間 上限値	修正/ 新規項目	第2版 ICC	第2版 項目名
1. 精神病症状	0.833	0.772	0.887		0.797	
1) 通常でない思考内容	0.852	0.797	0.901		0.771	
2) 幻覚に基づく行動	0.783	0.711	0.852		0.655	
【精神病症状】 の小項目	0.776	0.703	0.846		0.773	
3) 概念の統合障害	0.798	0.730	0.862		0.704	
4) 精神病的なしぐさ	0.830	0.770	0.886		0.636	
5) 不適切な疑惑	0.731	0.649	0.812		0.673	
6) 誇大性	0.857	0.804	0.905		0.752	
2. 内省・洞察	0.797	0.728	0.862		0.657	
1) 対象行為への内省	0.856	0.802	0.904		0.666	
【内省・洞察】 の小項目	0.829	0.768	0.885		0.731	
2) 対象行為以外の他害行為 への内省	0.875	0.827	0.917		0.796	
3) 病識	0.749	0.670	0.826	修正項目	0.655	コンプライアンス
4) 対象行為の要因の理解	0.752	0.674	0.828	修正項目	0.529	
3. アドヒアランス	0.752	0.673	0.828	修正項目	0.507	
4. 共感性	0.727	0.644	0.809	修正項目	0.620	
5. 治療効果	0.718	0.634	0.803	修正項目	0.461	興奮・躁状態 ※欠損1評定者
6. 非精神病性症状	0.736	0.655	0.815	修正項目	0.515	
1) 興奮	0.775	0.701	0.845		0.709	
【非精神病性 症状】の小項 目	0.616	0.520	0.719		0.663	
2) 不安・緊張	0.729	0.647	0.810	修正項目	0.543	
3) 怒り	0.812	0.747	0.873	新規項目		※欠損2評定者
4) 感情の平板化	0.838	0.779	0.891		0.814	
5) 抑うつ	0.799	0.731	0.863	新規項目		
7. 認知機能	0.791	0.721	0.857	修正項目	0.511	生活能力
【認知機能】の 小項目	0.826	0.764	0.882		0.772	
1) 知的障害	0.841	0.783	0.893		0.791	
2) 認知機能の偏り	0.789	0.718	0.855		0.696	
8. 日常生活能力	0.793	0.723	0.859		0.618	
1) 整容と衛生を保てない	0.746	0.667	0.824		0.535	
【日常生活能 力】の小項目	0.765	0.690	0.838	修正項目	0.511	生活能力
2) 金銭管理の問題	0.806	0.740	0.868		0.768	
3) 家事や料理をしない	0.580	0.483	0.688		0.608	
4) 安全管理	0.709	0.623	0.795		0.684	
5) 安全管理	0.783	0.711	0.852		0.710	
6) 公共機関の利用	0.752	0.674	0.828		0.672	
9. 活動性・社会性	0.732	0.650	0.813	新規項目		
1) 生活リズム	0.783	0.711	0.852		0.707	
【活動性・ 社会性】の 小項目	0.578	0.480	0.686		0.668	
2) コミュニケーション技能	0.722	0.638	0.805		0.612	
3) 社会的引きこもり	0.740	0.660	0.819		0.663	
4) 孤立	0.755	0.678	0.831		0.608	※欠損1評定者
5) 活動性の低さ	0.763	0.687	0.837		0.645	
6) 生活のバランス	0.726	0.643	0.808	修正項目	0.540	
10. 衝動コントロール	0.884	0.839	0.924	修正項目	0.530	自殺企図
1) 一貫性のない行動	0.798	0.730	0.863		0.672	※欠損1評定者
【衝動コント ロール】の小 項目	0.635	0.541	0.735	修正項目	0.529	非社会性
2) 待つことができない	0.854	0.800	0.903		0.721	
3) 先の予測をしない	0.708	0.622	0.794	修正項目	0.581	
4) そのほかされる	0.846	0.790	0.897		0.812	
5) 怒りの感情の行動化	0.901	0.862	0.935	修正項目	0.853	
11. ストレス	0.905	0.868	0.938		0.818	
12. 自傷・自殺	0.941	0.917	0.962		0.887	
13. 物質乱用	0.870	0.820	0.914		0.796	
14. 反社会性	0.734	0.651	0.814	修正項目	0.593	生活費
15. 性的逸脱行動	0.936	0.909	0.959		0.902	
16. 個人的支援	0.931	0.902	0.955		0.917	
17. コミュニティ要因	0.685	0.595	0.776		0.622	
18. 現実的計画	0.909	0.872	0.940		0.872	
1) 退院後の治療プランへの同意	0.934	0.906	0.957	修正項目	0.910	
2) 日中の活動、過ごし方	0.757	0.678	0.832		0.613	
【現実的計画】 の 小項目	0.878	0.831	0.919	修正項目	0.888	
3) 住居	0.958	0.940	0.973		0.934	
4) 経済的基盤	0.887	0.843	0.925		0.846	
5) 緊急時の対応	0.943	0.919	0.963	修正項目	0.940	緊急時の対応
6) 各関係機関との連携・協力						
7) キーパーソン						
8) 地域への受け入れ体制						
19. 治療・ケアの継続性						
1) 治療同盟						
【治療・ケアの 継続性】の小 項目						
2) 予防						
3) モニター						
4) セルフモニタリング						
5) クライシスプラン						

共通評価項目の解説とアンカーポイント（第 3 版） 2015.1.1現在

医療観察法医療必要性の判断根拠や基準をより検証可能にし、また治療が始まった場合には多職種チームでの評価や、入院・通院・再入院・処遇の終了などの様々な局面で継続した評価を行うために、共通評価項目を設定する。この評価は疾病性や治療反応性を基礎とし、リスクアセスメントとそのマネジメントに注目して作成される。

共通評価項目は以下の 19 項目と個別項目とする。

なお、第2版から第3版への主な改訂点を枠囲みで示した。

共通評価項目

「疾病治療」

- 1) 精神病症状
- 2) 内省・洞察
- 3) アドヒアランス
- 4) 共感性
- 5) 治療効果

「セルフコントロール」

- 6) 非精神病性症状
- 7) 認知機能
- 8) 日常生活能力
- 9) 活動性・社会性
- 10) 衝動コントロール
- 11) ストレス
- 12) 自傷・自殺

「治療影響要因」

- 13) 物質乱用
- 14) 反社会性
- 15) 性的逸脱行動
- 16) 個人的支援

「退院地環境」

- 17) コミュニティ要因
- 18) 現実的計画
- 19) 治療・ケアの継続性

評価項目の使用法

1. 本評価項目は、治療導入前から治療中、退院後のフォローアップを通じて定期的に評価し続けるものである。そのため、項目は全て可変(dynamic)なものとする。特に指定入院医療機関における評価はデータベースとして蓄積し、治療効果や予後についての研究に用いるため、当該評価時点での評価を継続的に残されたい。
 2. 評価期間は、原則として 3 ヶ月とし、3 ヶ月間の最も悪い状態を考慮して点数化する。生活能力など評定項目の多くは短期間で変化するものではないが、【精神病性症状】、【非精神病性症状】は数週間単位での変化が予想される。これらの項目についても 3 ヶ月間の最も悪い状態が点数化されるが、【自傷・自殺】、を合わせた計 3 項目に関しては最終観察日を記入し、その後の状態の推移を備考欄にテキストで記入する。鑑定時の評価についても入院後初回評価と同様で、対象行為の半年前から鑑定時までの観察期間中を評価期間として最も悪い状態が点数化されるが、薬物による酩酊など一過性の精神病状態があり、鑑定時に症状が消失していた場合には、その旨を鑑定での特記事項としてテキストで明記する。なお、医療観察法病棟入院中の対人暴力、性的暴力、自傷行為・自殺企図についてはそれぞれ診療支援システム内に記録を残す。
 3. 評価項目を可変なものとするため、項目は主として現在の状態の評価となる。しかし将来のマネジメントプランを検討するため、マネジメントにつながる、近未来についての評価項目を含んだ。
 4. 本評価は処遇の変化の判断にも用いられる。リスクアセスメントには本評価と併せ、過去の(不変の)要因も考慮に入れるべきであるが、通院移行後の問題行動等の予測力が認められた項目についてはそれぞれの項目の解説に付記するとともに、高い AUC が得られた項目の構成について以下に記す。

退院申請時点における【衝動コントロール】【衝動コントロール 1) 一貫性のない行動】
【非精神病性症状 3) 怒り】【日常生活能力 3) 家事や料理】【物質乱用】【性的逸脱行動】
【個人的支援】の合計得点
●通院移行後 3 年以内の問題行動 (<放火><性的な暴力><身体的な暴力><非身体的な暴力><医療への不遵守><AI・物質関連問題>のいずれかの発生) の予測
AUC=.803
●2 年間追跡できたサンプルでの問題行動の予測
AUC=.717
●通院移行後 3 年以内の暴力 (<性的な暴力><身体的な暴力><非身体的な暴力>のいずれかの発生) の予測
AUC=.792
●2 年間追跡できたサンプルでの暴力の予測
AUC=.771
- 7 項目合計点と暴力発生率、問題行動発生率の関係の参考として、2008 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日の期間に入院決定を受けた対象者であり、2013 年 10 月 1 日時点調査で 2 年間追跡できた 115 例の、上記 7 項目合計点ごとの問題行動発生件数、暴力発生件数をクロス集計表で示す¹⁾

¹⁾追跡調査は指定通院医療機関を通じて行っており、2 年に満たない期間で処遇終了となっ

		退院申請時点における【衝動コントロール】【個人的支援】【物質乱用】【非精神病症状3) 怒り】 【生活能力4) 家事や料理】【衝動コントロール1) 一貫性のない行動】【性的逸脱行動】合計								
		0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	合計
2年以内の 問題行動	なし	20	16	29	13	9	3	1	1	92
	あり	2	2	3	6	5	2	2	1	23
	合計	22	18	32	19	14	5	3	2	115
2年以内の 問題行動発生率		0.09	0.11	0.09	0.32	0.36	0.40	0.67	0.50	0.20
2年以内の 暴力	なし	22	16	30	16	9	3	2	1	99
	あり	0	2	2	3	5	2	1	1	16
	合計	22	18	32	19	14	5	3	2	115
2年以内の 暴力発生率		0.00	0.11	0.06	0.16	0.36	0.40	0.33	0.50	0.14

5. 医療観察法医療においては他害行為のみならず対象者の自殺を防ぐことも求められる。

通院移行後の自殺企図、および指定入院医療機関入院初期に発生する自殺企図において高い AUC が得られた項目の構成について以下に記す。

①退院申請時点における【日常生活能力3) 家事や料理】の評点

●通院移行後 3 年以内の自殺企図の予測²⁾

AUC=0.792

②指定入院医療機関での入院時初回評価における【非精神病性症状4) 感情の平板化】【衝動コントロール1) 一貫性のない行動】【治療・ケアの継続性1) 治療同盟】の合計点

●指定入院医療機関入院から 3 週間～4 ヶ月に生じる自殺企図の予測

AUC=0.760

3 項目合計点と自殺企図発生率の関係の参考として、2008 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日の期間に入院決定を受けた対象者であり、2013 年 10 月 1 日時点調査で収集できた 538 例の、上記 3 項目合計点ごとの自殺企図件数をクロス集計表で示す。

		入院時初回評価における【非精神病性症状4) 感情の平板化】 【衝動コントロール1) 一貫性のない行動】 【治療・ケアの継続性1) 治療同盟】の合計点							
		0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	合計
入院3週～4ヶ月の 院内自殺企図の有無	なし	73	58	106	115	114	41	31	538
	あり	0	0	0	3	4	0	3	10
	合計	73	58	106	118	118	41	34	548
発生率		0.00	0.00	0.00	0.03	0.03	0.00	0.09	0.02

以上の結果から、地域処遇への移行後の問題行動や暴力の予測には【衝動コントロール】

【非精神病性症状3) 怒り】【日常生活能力3) 家事や料理】【物質乱用】【性的逸脱行動】

【個人的支援】の合計得点を、地域処遇への移行後の自殺企図の予測には【日常生活能

た事例、再度の入院処遇となった事例は調査に含まれない。また通院移行後 3 年以内の問題行動ないし暴力の予測研究では、問題行動ないし暴力あり群は追跡期間が 3 年に満たない対象を含む一方、なし群は追跡期間が 3 年に達した対象に限定しているため、AUC の算出としては利用できるが、暴力発生率はベースレートが高く示されてしまうため、ここには示さない。

²⁾通院移行後の自殺企図の予測に関しては、収集事例中自殺企図あり例は 11 例で、2 年間の追跡できたサンプルに限ると既遂例 2 例を含む 8 例が解析から除外されることとなってしまったため、「2 年間追跡できたサンプルでの予測」は行っていない。通院移行後 3 年以内の自殺企図の予測研究では、問題行動の予測研究と同様にベースレートが正しくないために、ここでは示さない。